2009年度・研究旅行奨励制度　【グループ】

名　前	長儀あいか 島居　千佳	研究テーマ	芸術作品から読み取る16世紀 イタリア・マニエリスム期の宗教画における人物表現
目的地	国　名		地域・都市名
	イタリア ヴァチカン市国		ローマ、フィレンツェ

研究旅行の目的
３年次からゼミでの研究活動を通して、芸術作品には作者の意向だけでなく、政治的背景、社会的背景、民衆心理などの様々な要素が含まれ、それらの相乗効果により、より美しさを増す作品が多いことを実感した。特に芸術の頂点と言われたルネサンス期からバロックにおける実作品から受け取れる雰囲気、大きさ、タッチを感じとり、当時のその作品を見た人々、また、作者自身と同じ目線でその効果を体感・検証したい。年代としては、盛期ルネサンスからバロックの始まりまでの時代を中心とし、歴史の舞台となったローマ・フィレンツェを実際に歩くことで、その社会情勢を効果的に推測、体感、理解したい。そして、時代に沿って芸術作品を比較検討することが、新しい発見、疑問点、興味の和を広げる手助けになると考えられる。絵画や彫刻と言った芸術作品は文字のない歴史書と言っても過言ではないと思う。それぞれに①鳥居は、同時代の社会情勢と芸術作品との関係性に注目し、マニエリスム期の作品に見られる独特の浮遊感・不安感・彩色・構図が当時の時代背景・作者真理とどのような関連があるかについて比較・検討する。②長儀は、当時の女性美について研究する。絵画から化粧・モード・ヘアスタイルを分析し、現代（近代）との関連を見出す。そして当時の美の概念について考察し、描かれた女性像の与える当時の観者たちへの心理的影響を読み取る。という視点から２人の役割を明確にし、２つの見方を総合して、多角的に当時の美術を理解し、検討することで学習効果を高めると共に卒業論文に向けて確かな土台を作りたい。
期待される成果
・卒業論文へのモチベーションを高めるだけでなく、具体的な体験、学習として卒業論文に反映することができる。 ・２人の役割分担を明確にすることで、学習効果が高められる。 ・芸術作品が見る人に与える影響の大きさを再確認できる。 ・実際にその土地に足を運び、その風土に触れたり実作品と向き合ったりすることで、歴史や精神理解の手助けとなる。

旅行日程表

旅行期間：　2009年９月１日～９月10日　　［　10日間　］

	滞在地	行　動

第１日目 ９月１日		福岡（10:15 発）→シンガポール（15:20 着）、シンガポール（01:15 発）→ローマ（07:45 着） 9/2
第２日目 ９月２日	ローマ	フォロ・ロマーノ、コロッセオ、凱旋門を訪れる。歴史を学ぶ、体験するという目的のもと、実際に建築物を鑑賞する。
第３日目 ９月３日	ローマ ヴァチカン市国 フィレンツェ	ヴァチカン市国を訪れる。システィーナ礼拝堂で、ミケランジェロ後期のマニエリスム絵画『最後の審判』を見る。サン・ピエトロ大聖堂やシスティーナ礼拝堂でそこの宗教感を感じとりたい。 午後、鉄道にてフィレンツェへ移動。（所要時間２時間）
第４日目 ９月４日	フィレンツェ	ウフィッツィ美術館を訪れる。『首の長い聖母』パルミジャニーノ、『ハルピュイアの聖母』アンデルア・デル・サント、『聖母子と幼児ヨハネ』ポントルモなどを見て、マニエリスム期の絵画を中心として、ルネサンス期からバロック期の人物の描かれ方の変遷をたどる。
第５日目 ９月５日	フィレンツェ	ピッティ宮・ボボリ庭園（モンスターパーク）を訪れる。ピッティ宮では、『天に昇るマグダラ』グイド・カニャッチ、『ピエタ』アンドレア・デル・サントなどを見る。また、ボボリ庭園ではマニエリスム彫刻と庭園美術を見る。 サンタ・フェリチタ聖堂を訪れる。ポントルモの『十字架降下』、『受胎告知』などのマニエリスム絵画の代表的作品を見て、それぞれの視点で鑑賞・考察し、情報を集める。
第６日目 ９月６日	フィレンツェ ローマ	ドゥオーモのクーポラを訪れ、フィレンツェ歴史地区を歩く。建築物などから、時代の流れや文化の移り変わりを推測しながら、街を体感する。 鉄道にてローマへ移動。（所要時間２時間）
第７日目 ９月７日	ローマ	ボルゲーゼ美術館を訪れる。ラファエッロ作品やマニエリスムの宗教画・肖像画を鑑賞する。『キリスト洗礼』マルコ・ピーノ、『聖愛と俗愛』ティツィアーノなども見る。また、美術館の建築や展示の様子にも注目する。
第８日目 ９月８日	ローマ	ローマ（12:00 発）→
第９日目 ９月９日		シンガポール（06:10 着）
第 10 日目 ９月 10 日		シンガポール（01:00 発）→福岡（08:10 着）